

ホントにこわい、大丈夫というコトバ

住宅業界で、よく耳にする言葉に「大丈夫です」という決まり文句があります。このところ、「大丈夫です」という言葉から始まったトラブルが多いことに気がつきました。

広辞苑によると、しっかりしているさま、ごく堅固なさま、あぶなげのないさま、とあります。しかし今は、とてもあいまいな言葉です。ハツタリや、ときには安全でないような意味すら含んでいるように聞こえます。

先日、住宅の揺れが気になり耐震診断を依頼された物件がありました。平屋建ての二階に子供室を増築したものでした。依頼人が最初に業者に相談したことは、平屋に二階をあげて大丈夫かと言うことでした。それに対し、業者は「大丈夫です」と即答し、依頼人は安心して発注したという経過です。

ここで問題が二つあります。一つは、業者に相談して「できません」という答えは100%ないということです。目の前の仕事を断る業者はいまどきあり得ないのではないのでしょうか。

二つ目は、可能かどうかの判断を専門家に依頼しなかったことです。業者の多くは工事の専門家ではあるのですが、構造の専門家ではありません。平屋建てに二階をあげる場合、基礎・柱・はりなどの状況を調査したうえで、どのような補強をすれば構造的にクリアできるのか判断しなければなりません。どんな熟練した専門家でも即答はできません。平屋

用の基礎・柱・はりに、何の補強もなしに二階を上げたのですから結果は推して知るべしです。

4本の木製の柱に鉄骨ばりが2本乗った、3台用車庫の診断依頼がありました。業者が「大丈夫です」というので安心していましたが、友人たちに危険だと言われ不安になったのだそうです。筋かいもなく接合部も簡単なものでした。マッチ棒4本の上に分厚い辞書を載せているようなものです。建てて一年、これまで倒れなかったのが不思議です。

この工事業者は、誠実で人柄もいい方でした。しかし、勉強を全くしておらず、30年前の知識と自己流のやり方で押し通してきたのでした。悪気はないのですが、結果的に、良心的に、一所懸命に、欠陥建築を造り続けてきたことになりました。

業者の三大決まり文句というのがあります。

「大丈夫です」何がどう大丈夫なのか、論理的な説明もなく繰り返す言葉です。「木は生き物だから狂いが出ます」本来であれば、その狂いも計算のうえで造るのがプロの仕事です。

「人間のやることですから」人間がやることだから間違いがないように勉強すべきなのです。

住宅は、シロウトでも判断できることがたくさんあります。自分の感覚で納得できるまで、論理的な説明を求めることがトラブルを防ぐコツだと思います。